

愛媛県出資法人点検評価部会 平成20年度第1回部会 議事概要

日 時	平成20年10月6日(月)
場 所	13:30～14:30
出席者	
〔委員〕	武士末部会長、岡本委員、黒田委員、妹尾委員、橋本委員、松本委員 (6名)
〔事務局〕	総務部長、新行政推進局長、行政システム改革課長、同課長補佐 他

《 開 会 》

・ 総務部長あいさつ

・ 委員紹介

・ 部会長及び部会長代行の選任

(委員の互選により、武士末委員を部会長に選任)

(部会長の指名により、松本委員を部会長代行に選任)

・ 議 事

(1) 20年度点検評価の進め方等について

【武士末部会長】

それでは、議事に入ります。

まず、今回は、20年度最初の会議でもありますことから、今年度の点検評価の進め方について、事務局より説明願います。

資料1により、事務局より説明

【武士末部会長】

ただ今の説明に関し、何かご意見等はございませんでしょうか。

特にないようでしたら、事務局説明のとおりとさせていただきます。

(2) 20 年度 1 次評価結果等について

【武士末部会長】

次に、20 年度の 1 次評価結果について、事務局より説明をお願いします。

資料2により、事務局より説明

【武士末部会長】

ただ今事務局から説明のあった各法人の 1 次評価結果等に関し、何かご意見等はございませんでしょうか。

各法人とも、この部会での提言が法人運営に生かされており、よい刺激になっているという感触を持っているところです。各委員からのご意見が法人のためになるものと考えます。忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

【岡本委員】

各法人とも業績は改善しているものと思いますが、特に財団法人等については、目的があって設立され、それに対して県は出資しているものと思います。収益面だけにとらわれることなく、法人の本来の目的に沿った活動を展開していただきたいと思えます。

【黒田委員】

廃棄物処理センターについて、「東予事業所の焼却・溶融施設は全国でも数少ない高度処理施設である」とのことですが、今後これをどう活用していくのでしょうか。具体的な計画等はあるのでしょうか。

【事務局】

東予事業所の施設は、単なる焼却施設ではなく、焼却灰なども含めて溶融し、最終的にはガラス状のものにして再利用するという、環境面で大変優れた施設ではありますが、その処理に係るコストが高額となるため、厳しい運営を強いられているという状況にあります。

近年、リサイクルの意識が進みゴミの排出量が減ったことに伴い、当初の計画よりも市町から持ち込まれるゴミの量が減ったことも、現在の状況に至る大きな要因となっております。

このため、市町からの搬入だけに頼るのではなく、民間へも営業活動を広げたいと考えているところであります。

【妹尾委員】

これまでの右肩上がりの行政を取り巻く環境の中にあっては、県民の需要に応じて、

さまざまな組織や箱物を作ってきたということであろうとは思いますが、果たしてそれは、生産者の観点に立ったものなのか、あるいは、消費者の観点に立ったものなのか、その点がはっきりしないため、今の時代にそぐわないといった状況を引き起こしているのではないかと思います。

特に、統合の方針が示されている水産振興基金と栽培漁業基金については、国からの補助等々の兼ね合いもあり、それぞれの組織が必要な時代もあったものとは思いますが、もうそういう環境にはないのではないかと思います。

また、愛媛エフ・エー・ゼットに関しては、施設の規模がどうなのか、愛媛県に必要だったのかという点を含め、その総括についても考えなければならないのではないかと思います。

【武士末部会長】

ありがとうございました。

それでは最後に、昨年度、当部会として2次評価を決定する際にお願いをしておりました点検評価結果の役員等への周知状況について、事務局から報告をお願いします。

資料3により、事務局より報告

【武士末部会長】

当部会での評価対象法人は非常に数が多く、委員の負担も大きいものと思いますが、各委員とも使命感を持って臨んでおられると感じております。この部会での点検評価が形骸化したのでは意味がないと思います。今後とも、その点を十分に踏まえて対応していただくようお願いします。

それでは、以上をもちまして、平成20年度第1回の点検評価部会を終了します。

委員の皆様方におかれましては、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

《 閉 会 》

なお、当部会には、各出資法人・所管部局は出席しておりません。